

## マレーシア政治の劣化：

### ナジブ元首相の汚職有罪は確定するか

[世界経済評論 IMPACT No 2633, 2022 年 8 月 15 日]再録・補足

汚職で有罪判決(禁錮 12 年と罰金 2.1 億リンギット)を下されて保釈中の被告ナジブ・ラザク元首相の連邦裁判所(最高裁)の公判は 8 月 15 日～26 日の 10 日間行われる。元首相が初めて収監されるか、あるいは無罪放免されるか、現下の不安定なマレーシア政治情勢とも絡んで連邦裁の審理と判決が注目される。

#### 1MDB(ワン・マレーシア開発公社)からの巨額汚職事件

そもそも元首相がなぜ裁判にかけられたのか。2009 年に首相に就任するやナジブ首相が自ら発足させた政府系投資ファンド 1MDB(ワン・マレーシア開発公社)から 45 億ドル(米国司法省発表)もの巨額汚職疑惑が明らかになると、2018 年 5 月の総選挙で有権者たちがこれに No を突き付け、独立以来初めての政権交代が実現した。マハティール首相率いる新政権(希望連盟)は選挙公約に従って 1MDB 疑惑の解明に着手し、2018 年 7 月～12 月にナジブ前首相は職権乱用・背任・資金洗浄罪(マネーロンダリング)など合計 42 件もの罪状で起訴された。起訴件数があまりにも多いので、公判は 5 つのグループに分けられた。

そのうちの一つが今回連邦裁判所に上告されたのは、1MDB の資源開発子会社 SRC インタナショナル社の裁判。これは SRC 社が資源開発の名目で公務員退職金基金から得た 40 億リンギットの融資に対してナジブ首相が職権を乱用して政府保証を与えるように指示し、さらにそのうちの 4,200 万リンギット(約 11 億円)が 2013～2014 年にナジブの個人口座に不正に入金されたというもの。

初公判は 2019 年 4 月 3 日、高裁の被告席にナジブ元首相が初めて座った(ちょうど 10 年前の同じ日、首相の座についた)。資金の流れの証拠もあり、比較的単純な犯罪なのに、弁護側の裁判引き延ばし作戦とコロナ禍によって裁判は 1 年 3 か月を要した。2020 年 7 月 28 日に一審でナズラン裁判官が有罪判決を下すやこれを不服としてナジブ側は控訴裁判所(二審)に上訴、控訴裁判所(3 人の裁判官)でも長い審判となり、2021 年 12 月 8 日に高裁の有罪判決(禁錮 12 年と罰金 2.1 億リンギット)を全面的に認めた。

控訴裁判所の判決では、4,200 万リンギットはアラブ王室からの献金と主張す

る被告に対し、その証拠はない、アラビアンナイトを凌ぐ作り話だ、と断言、また、国益を重んじた末の行為との主張には「国恥」と断定した。

### 高裁判決の無効を求めるナジブ被告

このように追い込まれたかたちのナジブ被告は連邦裁判所でどのような新証拠をもって立ち向かうのか。ナジブ側は今年3月に、有罪判決を下した高裁の裁判官モハマド・ナズラン判事に裁判する資格がそもそもなかったのではないか、という問題を突然持ち出した。すなわち、ナズラン判事（オクスフォード大卒）は以前に有力銀行メイバンクの顧問弁護士として2012年に同行が1MDBに融資したときに関与していたので、利益相反・利害衝突(conflict of interest)の立場にあると主張。よって判決は無効であり、再審すべき、とナジブ被告が供述書を提出した(6月7日)。これに対して検察側は、ナズラン判事の前職は周知の事実であり、SRC裁判とは無関係、利益相反はない、との供述書を出した(6月29日)。

ナジブ支援のブログとして悪名高い”Malaysia Today”が、「ナズラン判事の100万リンギットの疑惑預金が汚職防止委員会によって捜査されている」(注1)、と不確定情報を流した(4月19日付け)。これに対してナズラン判事及び連邦裁判所事務総局は全く事実無根の情報としてポリス・レポートを出した。だが、汚職防止委員長官は同事案については、捜査報告書をすでに法務長官に提出して指示を待っていることを認めた(5月23日)。

これに強気になったナジブ元首相は、ナズラン判事に対する汚職防止委員会の捜査内容をすべて把握しているので(匿名の文書が自宅に送られてきた)、捜査担当者実名を挙げた3名を証人として連邦裁に喚問するよう求める、という2回目の供述書を7月14日に連邦裁に提出した。公的機密をつねに掌握して利用するという権力者然としたナジブ被告の素顔が見えてくる。検察もナジブ側にナズラン判事を貶めるねらいがある、と供述書で批判した。

次の大きな動きはナジブ弁護団の変更である。連邦裁での弁護団にイギリスの勅撰弁護士ジョナサン・レイドロウ氏に加わる申請をしたが、高裁は「国内に人材がいるので勅撰弁護士は不要」と却下した(7月21日)。これに対し7月25日、ナジブは大胆にも弁護団を総入れ替えした。一審、二審を担当してきたシャフィー主任弁護士を中心とする弁護団を解任し、新たにザイド・イブラヒム元法務大臣率いる弁護士事務所ZISTのヒシャム・テエ主任弁護士のグルー

プを採用した。公判直前に弁護団を変更するナジブの狙いは裁判引き延ばししかない。7月26日、新弁護団は、①準備のためSRC公判を延期してほしい、②6月7日の申し立ての再確認（ナズラン判事の利益相反により、SRC裁判は全面的に無効、もしくは再審を求める）、を連邦裁判所に申請した。

7月29日の裁判準備手続き会議で連邦裁判所事務総局は、①いかなる公判延期も認められない（法廷準備は両弁護士団で話し合えばよい）、公判は予定通り8月15日～26日の10日間行う、②ナズラン判事の利益相反問題と裁判無効の申し立ては8月15日からの公判で審理する、と弁護側と検察側に回答した。

8月に入ってからナジブは動く。ナジブ口座に入金された4,200万リンギットはメイバンクからSRCに融資された1.4億リンギットの一部である、とこれまでの主張を翻す3回目の供述書を8月5日に連邦裁判所へ提出した(注2)。ナズリン判事を陥れるためならば、いとも簡単にあのアラビアンナイト物語を放棄する。

破れかぶれのナジブ被告の最後の訴えをトゥンク・マイムン連邦裁判所長官を裁判長とする5人の裁判官（サバ・サラワク裁判所長官、3名の連邦裁判事）がどう厳正に裁くか注目される。ただ、公判初日（8月15日）に新弁護団は裁判延期を口頭で訴え、もし認められないなら弁護を辞退することを示唆した（8月10日の準備手続き会議で）。裁判引き延ばしを狙うナジブの術中に嵌ってしまうのか。

## 司法介入と UMNO ナジブ陣営の復権

マレーシアに三権分立があるとはいえ、為政者の影響力は無視できない。

マハティール政権が倒れた直後の2020年3月にムヒディン新首相の就任を祝いにやって来たナジブは、「自分の公判（SRCではなく、IMDB本体の裁判）を担当しているゴパール・スリラム主任検察官を解任するよう依頼してきたが、断った」、とムヒディン氏は後に証言している。同様にザヒド UMNO 総裁も大きなファイルを抱えて自宅にやって来て自分の抱えている起訴案件（全部で87件）を撤回してほしい、と言ってきたが拒否した、とムヒディンは述べている(注3)。

また、2020年9月23日、アンワル野党代表は、議席の過半数を確保したにも拘わらず政権を樹立できなかったのは「起訴の取り消しなど裁判への介入

はしない、という私の条件が（UMNO から）受け入れられなかったからだ」、と 2022 年 4 月 19 日になって初めて釈明した(注 4)。

なぜこのような事が起きるのか。端的に言って、2022 年 2 月末に発足してわずか 2 年未満のマハティール政権が、総選挙で敗れたはずのナジブら UMNO 陣営によって、略奪・乗っ取られたからだ。つまり、“選挙なしの政権交代”が起こり、現地メディアに言わせれば、“裏口政府”が誕生した。当時与党の Bersatu（マレーシア統一プリブミ党）のムヒディン総裁や PKR（人民公正党）アズミン・アリ副総裁らが造反したのではなく、むしろ復権に執念をもつ UMNO ナジブ陣営によって巧みに切り崩され、利用されたのだ。3 月に発足した新政権は議員数で UMNO が筆頭(38 名)を占めていることから明らかだ。ただ、ナジブらの裁判に介入しようとするムヒディン首相はやがて UMNO から支持を失い、2021 年 8 月 17 日に瓦解。今度は UMNO 序列三番手のイスマイル・サブリ副総裁補が首相として登場し、文字通り UMNO 政権が復活した。総選挙で有権者の信託を失った側が選挙せずして政権に復帰したことになる。

これによって政権側の司法介入が目立つようになった。汚職で起訴された UMNO 要人（アフマド・マスラン UMNO 幹事長ら 4 名）が証拠不十分や罰金を払う条件などで UMNO 復帰後の 2020 年～2021 年にそれぞれ起訴が撤回された。マレーシアの政治劣化はここまできた。

さらに司法機関も UMNO 政権寄りの姿勢を強めている。汚職防止委員会が十分に検証せずにナズラン判事の捜査に入ったことにマレーシア弁護士会が抗議し、5 月 6 日三人の弁護士が憲法違反ではないかと提訴した（高裁はこれを受理し、10 月 19 日に連邦裁判所で審理に入る予定）。

また、5 月末には 1MDB 汚職事件の黒幕である華人実業家ジョー・ロー（Low Taek Jho：中国に逃亡中）が米国の弁護士事務所を通じ、15 億リングギットを支払う代わりに無罪にしてほしい、という交渉をイドルス・ハロン法務長官に持ち込んだが、法務長官側はこれを拒否したという。この事実が 7 月になって初めて公表された(注 5)。しかし、法務長官が黒幕と交渉すること自体が問題だ。しかも交渉の仲立ちをしたのが、驚くべきことに 2016 年 1 月にナジブ首相の 1MDB 嫌疑を晴らしたアパンディ元法務長官だった。UMNO ナジブの復権はもはや否定できない。

しかしながら、「事件は公判で提示される証拠と法律の原則によってのみ判決が出される」(注 6)というトゥンク・マイムン連邦裁判所長官の見解がこの裁判でも貫かれることになる。そうであれば、ナジブ元首相は有罪が確定し、

収監される可能性が大きい。だが、現在の UMNO 政権下では国王へ恩赦を進言しやすい。しかもアブドラ国王は同じパハン州出身のナジブ元首相とは昔から昵懇の関係にあり、この4月に王宮の断食明け夕食会にイスマイル・サブリ首相とは並んで保釈中のナジブ被告をわざわざ招待して話題になった。ただ、収監後に恩赦されたとしても、あと四つのもっと大きな汚職裁判が控えている。

本来なら、先の総選挙で国民から政治を任されたはずの野党連合・希望連盟が政権奪還に走るべきだが、かつての勢いが無い。そこで次の総選挙に向けて（2023年9月まで行えばよいが、UMNO側は年内選挙をイスマイル・サブリ首相に迫っている）、野党勢力はマハティール元首相（97歳）の新たな政治集団「祖国運動」（GTA）と選挙協力しない限り、UMNO/BNを打ち負かすことは難しい。

#### 注記

- (1) “Judge Mohd Nazlan being investigated for unexplained RM1 million in his bank account” , *Malaysia Today*, April 19, 2022
- (2) “Najib:SRC trial judge involved in proposing and advising on RM140m loan facility to SRC” , *theedgemarkets.com*, August 9, 2022
- (3) “Najib sought my help to remove Sri Ram as DPP-Muhyiddin” , *Malaysiakini*, Jan 21, 2022, “Ahamad Zahid asked me to intervene in his court case after showing stack of files- Muhyiddin” , *Bernamea*, May 5, 2022
- (4) “Ini soal prinsip-Anwar jawab sindirian majoriti ‘kukuh, meyakinkan’ ” , *Malaysiakini*, Apr 19, 2022
- (5) ” AGC sahkan tolak semua tawaran penyelesaian dibuat Jho Low” , *Malaysiakini*, Jul 16. 2022
- (6) “Tohmahan terhadap hakim, badan kehakiman agak keterlaluan- Tengku Maimun” , *Berita Harian* , April 27, 2022

#### \*補足

予定通り8月15日から連邦裁判所でナジブ被告のSRC汚職事件の最終審理が始まったが、初日から波乱含みの展開となった。被告側が申し立てたナズラン判事の利益相反に関する新証拠提出と裁判の延期要請をいずれも裁判所が却下した。これに不服の弁護団（ZIST）は8月19日に弁護を辞退すると通知し、残留した主任弁護士も裁判延期されなければ、弁護活動は無理と主張。裁判長はあくまでも予定通りの日程で公判を続ける、被告のため弁論に入るよう諭した。一方、

検察側はナジブ口座への資金流入を最初に取り上げて立証し始めた。

ザヒド総裁をはじめ UMNO 首脳陣がナジブ裁判への不満を一斉に発表した。これに対してマレーシア弁護士会長は政治家たちの裁判非難は厳に慎むべきという特別の声明文を発表した(8月19日)。

法の支配と司法の独立を求める多くのマレーシア国民は、トゥンク・マイムン裁判長(女性で初の連邦裁判所長官)の采配を注視している。 以上